

**大学発新産業創出プログラム プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援
事後評価結果**

研究開発課題名:	養豚場から出る未利用プラセンタの有効活用技術の事業
研究担当者 (所属・役職・氏名)	崇城大学 生物生命学部 教授 山本 進二郎

1. 本事業での活動目的

胎盤(プラセンタ)は免疫活性化、抗酸化、コラーゲン合成促進、などのさまざまな生理活性を持つ。本事業では現在ほとんど有効活用されていない養豚場から出る廃棄プラセンタを、家畜・ペットのサプリメントとして有効活用することを目的として、養豚業者、サプリメント製造会社、獣医師にヒアリングを行い、1) プラセンタの現場からの回収と保存、2)加工、3)活性評価、4)申請者の独自シーズとプラセンタの組み合わせによる差異化、のそれぞれの課題を検討した。

2. 総合所見

多くの養豚業者や農家に対し、事業化仮説に基づいた着実なヒアリングを行い、サプリメント販売時の収益構造や市場規模を明確化したことを評価する。光合成細菌を用いることによってサービスの提供価値を高めるとともにモニター試験も進めており、確実に技術の社会実装を進めることを期待する。

以上